



速報展

発掘された鈴鹿 2024

2025.3.22 (土) - 6.15 (日)

さわじょうあと

沢城跡 (第6次)

いいのじけ

飯野寺家町

5月7日～11月29日 集合住宅建築に係る記録保存調査 377.79 m



現代の耕作土

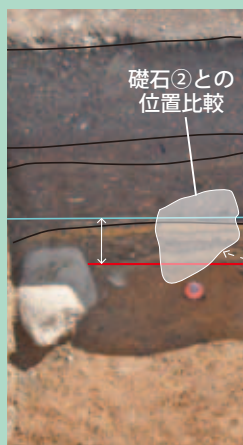
整地層

沢城の盛り土

沢城築城時の地面

沢城築城以前の堆積

沢城の盛り土の様子
(北から)



礎石②との
位置比較

現代の耕作土

整地層

沢城の盛り土

礎石①と②では、
検出された層が違う。
→時期差があるとわかる。

約4.5m

礎石①検出状況
(西から)



礎石②検出状況
(西から)

沢城は室町時代～戦国時代の鈴鹿の有力者とされる神戸^{かんべ}氏の城館といわれ、屋敷も兼ねた、政治を行うところであったと考えられます。神戸氏は1550年頃、沢城から神戸城（現在の神戸高校の近く）に拠点を移したといわれています。

過去5回の調査で、沢城築城以前の層に14～15世紀頃の遺構が確認されたとともに、沢城の遺構が検出された層からは16世紀前後の土師器^{はじき}の皿が出土しています。このことから、沢城は15世紀以降に築かれ、16世紀まで機能していたとわかりました。

第6次調査では、建物の柱の沈下を支える平らな石である礎石^{そせき}が複数見つかりました。これらが発見された深さはわずかに異なり、建物が建て替えられたとわかります。建て替え後と思われる礎石②がある層で16世紀に流通していた永楽通宝が見つかっており、建て替え後の礎石はその時期のものと考えています。

また、鈴鹿市内で3例目となる、全長約3.5cm、高さ3.5cmの犬形土製品が出土しました。犬は多産であることから、安産や成長に関するお守りであるといわれています。同じ層から見ついている土師器の皿の特徴から、15世紀半ば頃のものと考えています。



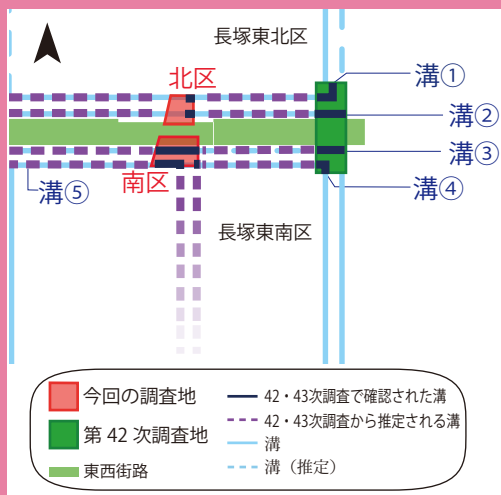
犬形土製品

し せ き い せ こ く ふ あ と ち ょ う じ ゃ や し き い せ き
史跡 伊勢国府跡（長者屋敷遺跡第 43 次） 広瀬町

2023 年 12 月 18 日～ 3 月 17 日 保存目的調査（学術） 223 m²

2022 年度の第 42 次調査により、^{ながつか}長塚東北・同東南区間に約 15 m の道路（^{とうざいがいろ}東西街路）があったことがわかりました。今年度はその東西街路が西側へどのように広がるかを確認したところ、ほぼ想定通りの位置で 5 条の溝（溝①～⑤）を確認しました。

溝③～⑤は長塚東南区を区画しており、溝④・⑤が途中で南に折れ曲がっていることから、長塚東南区は東西 2 つに分かれていると考えられます。



南区溝検出状況（北上空から）

ふ じ や ま ご う ふ ん こ く ぶ
富士山 1 号墳（第 4 次） 国分町

8 月 19 日～ 12 月 23 日 保存目的調査（学術） 26 m²

古墳東側において、前方部と後円部の接続部分（くびれ部）の位置と、後円部の規模を確認することを目的に調査区を設定しました。

トレンチ 9 では墳丘斜面にて非常に良好な状態で葺石が残り、墳頂から斜面の裾に向かい一直線に並ぶ箇所や、葺石の裾にて後円部に向かって基底石が整然と並ぶ様子も見られます。

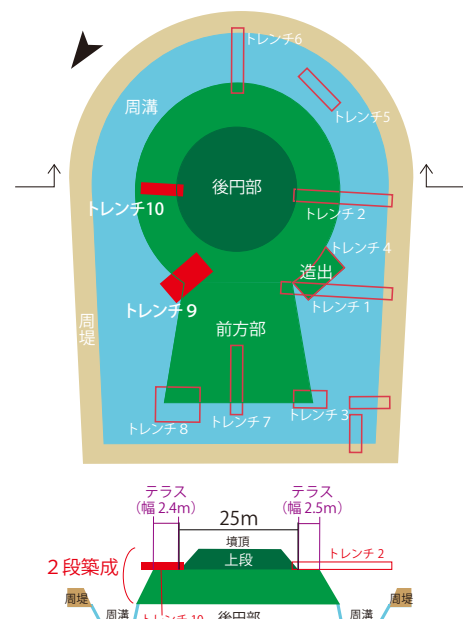
トレンチ 10 においても、上段斜面裾にて古墳築造当時のままの状態に残る葺石が確認され、上段斜面の裾の位置が特定できました。トレンチ 2 の調査結果とあわせて、後円部上段の直径が 25 m で、テラスの幅が 2.4 m であることがわかってきました。



トレンチ 9 葺石検出状況（北から）



トレンチ 10 葺石検出状況（東から）



ほったてばしらたてもの

過去の調査と同様に、竪穴建物や掘立柱建物、溝、柱穴が著しく重複して確認されました。竪穴建物は主に弥生時代後期～古墳時代前期初頭のものであり、10 棟以上確認されています。

18 次調査では、磐城山遺跡で初めて、方形周溝墓と思われる遺構が 2 基確認されました。どちらも弥生時代中期～後期のものであると考えられます。普通、方形周溝墓は集落との間に溝や柵などをつくることで区域を分けますが、磐城山遺跡ではそれらしい遺構は見つかっていません。方形周溝墓は弥生時代の集落の居住者を埋葬したものであると考えられます。



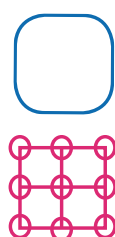
第 18 次調査完掘 (北上空から)



方形周溝墓完掘 (第 18 次) (南西から)



方形周溝墓



竪穴建物



掘立柱建物

上田狐塚 1 号墳・上田狐塚 2 号墳は昭和 62 年にどちらも円墳として遺跡地図に登録されました。登録以来、今回が初めての本調査となります。

上田狐塚 2 号墳は周溝が直線的であり、実際は方墳であると確認されました。6.5 m 前後四方、高さ 1.4 m と小型で、出土した須恵器の特徴から 6～7 世紀の古墳だとわかりました。主体部は調査していないため、墳丘は残ったままとなっています。

上田狐塚 1 号墳は、弥生時代中期の土器が出土したことから、古墳ではなく弥生時代の方形周溝墓だとわかりました。現在墳丘は残っていませんが、登録時には径 9.1 × 11.6 m、高さ 2 m であったと記録されています。



1 号墳・2 号墳 全景



1 号墳 (方形周溝墓) 完掘



出土した弥生土器

にし の き ど い せ き
西之城戸 A 遺跡 (第 1 次) こう 府 町

3月4日～3月15日
個人住宅建築に係る記録保存調査 53.45 m²

鎌倉時代～室町時代頃の掘立柱建物が1棟と、それを囲む溝が3条確認されました。市内の遺跡でもよく確認されている構造で、12世紀後半頃～14世紀頃に多く見られます。このような特徴を持つ遺跡は、有力者の屋敷跡であるといわれています。



遺構検出状況 (北から)

速報展関連イベント

■スライド説明会 (13:30～)

講師：発掘調査担当者

- ①沢城跡 5月18日 (日)
- ②伊勢国府跡・富士山1号墳 6月14日 (土)

こく ぶ い せ き
国分遺跡 (第 6 次) こく ぶ 町

5月23日～6月14日
個人住宅建築に係る記録保存調査 40 m²

国分町は伊勢国分寺があることから、古代の伊勢国における文化の中心であったと考えられ、国分遺跡には国分尼寺があったと一般的に知られています。

今回、土坑や溝、多数の柱穴が見つかりました。しかし、全体的に後世の攪乱を受けており、正確な時期や性格はわかりません。わずかながら奈良時代の瓦が出土しているほか、鬼瓦も確認されることから、国分尼寺に関連する遺跡が周囲に広がっている可能性は高いと考えられます。



調査区全景 (北から)



調査遺跡位置図 (1/50,000) (国土地理院発行の2万5千分の1電子地形図を使用)

考古博物館
公式 Facebook



鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 鈴鹿市国分町 224
TEL059-374-1994 FAX059-374-0986
URL <https://www.city.suzuka.lg.jp/kouko/21>
E-mail kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp

考古博物館
公式 X

